



部長通信

第5号

2019年3月発行

2018-2019 中部部長 柴田洋治郎
(名古屋東海クラブ)

主 題 ワイズ総活躍中部

活動方針

1. EMCに注力すると同時に各クラブの実情に合わせた、個性あるクラブ作りを目指す。
2. ワイズメンズクラブの目的は、第一にYMCAへの奉仕であり、引き続きYMCAとの協働を深化させる。
3. 名古屋、三重、石川、(富山)各クラブ間の連携強化。

3月の西日本区強調月間 JWF

JWF管理委員長 西野 陽一(大阪高槻)

「JWFは皆様の厚意によって支えられています。個人やクラブの記念に合わせて献金をお願いします！」

部長通信第4号を12月1日付でHPにUPして以来、様々な事情が重なり少し間が空きましたが、部長通信第5号をここにお届けします。

1、次々期中部ホストクラブ、部長選定の件(以下「次々期の件」という)について

本件に関しては、12月22日開催の第3回中部評議会議事録(中部HP参照願います)にも記載されていますが、改めてここに経過説明をさせていただきます。

私は、慣例に従い、輪番制による引受先を模索しようと、順序に従い、まず金沢犀川クラブ、次に四日市クラブに引受方打診を試みましたが、両クラブ共引受困難との回答でした。次に名古屋グランパスクラブにもお願いしましたが、期待していた回答は得られませんでした。そこで、第3回中部評議会を招集し、評議員中心に打開策を試みましたが、結論には至りませんでした。

評議会後1月に入り、金沢犀川、四日市両クラブからメールにて、両クラブとも諸般の事情により、会の維持も困難ということで当期中の解散を正式に決定し、引受不可との通知がありました。そこで、隔月で開催されている名古屋地区ワイズ連絡会で本件を再度協議し、名古屋グランパスクラブに再度お願いのところ、引受に前向きとの感触を得ました。但し、三重地区のクラブと共同引受も視野に入れているため、交渉にまだ時間を要すということで、この会は終了しました。その後2月20日にグランパスの荒川会長より経過報告を受け、グランパス単独で引き受けるとの回答を得ました。クラブ内でこれから、部長、中部キャビネットを決める作業に入るとのことでした。グランパ

スの会長他会員の皆様に感謝申し上げます。

中部部長として、本件に関し、以上の様に会員の皆様にご心配をおかけしたことをこの場をお借りして深くお詫びいたします。

今回の次々期の件は、以前より中部に潜在的にあった矛盾が顕在化したものと思われる。単なる輪番制が機能不全に陥ったことが明らかになった以上、選定方法の在り方、担当ホストクラブ、部長の過大な負担の軽減策、名古屋、三重、北陸間の地域間ギャップ等の解消策、共同引受の模索等、これから解決すべき課題はまだ多く残っています。

私が部長になってから、部長訪問やブリテンを通じて、クラブの大小に関わらず、各クラブは各種行事や楽しいクラブ作りに意欲的に取り組んでいる様子が伺えました。しかしクラブを持続させていくには、一定数以上の会員数、これに基づく財政基盤の確保が必要です。この点で中部は一部を除き、徐々に脆弱化してきたことは明らかで、会員全ては、この現実を冷徹に見詰め、再起を図るための努力が今後必要と思われます。これからは、ワイズ将来構想特別委員会を中心とした議論や西日本区の本部機能も巻き込んだ対策も必要と思われます。

2・とやまクラブ設立総会に参加して

この話題は、前段の息苦しい話とは対照的に中部にとって明るい話題です。2月10日に開催された設立総会のために、私は名古屋から高山線を利用して富山市へ入りました。雪が少ないと言われる今年にあっても、高山を過ぎてからはさすがに雪国に入ってきたと感じました。しかし、会場となった「とやま自由館」周辺は雪も殆ど無く、名古屋を出る前に心配していた雪と寒さは杞憂に終わりました。

中部に新クラブを設立するというテーマは数年前から取り上げられてきたものですが、ここに来て実現の運びとなったことを中部部長として、又中部の一員として大変喜ばしく思います。設立総会の詳細は中部のHPに載っていますので一読願います。

設立に至るまで、設立準備委員を中心に富山YMCAはじめホストクラブの金沢ワイズメンズクラブ、西日本区キャビネット他、関係者の方々の長期に亘る御努力に対し敬意を表します。とやまワイズメンズクラブの発起人は16名でスタートですが、清水淳準備委員長より5月のチャーターナイトまでには更に増員を目指すとの力強い宣言もあり、中部や北陸、延いては西日本区に強力な助っ人現るとの感を持ちました。とやまクラブには、現状もたついている中部の輝ける星となって、中部を牽引する力となっていただくことを期待します。

とやまワイズメンズクラブに関連して、私が見、知った範囲で富山YMCAのことを述べます。総会の翌日、総会参加者有志は清水淳準備委員長、松田誠一富山YMCA総主事の案内で、富山Yが運営する二つの幼稚園はじめその他の施設を見学させていただきました。富山Yの当地での存在感を目の当たりにすることで、ワイズの新クラブ設立の中心的役割を果たした富山Yのバックアップの姿は、地方YMCAがワイズのエクステンション活動の原動力となることを示す好例とも思えました。

Yの施設見学の後、さらにお二人の案内により立山連峰を眺めながら、富山湾に面する新湊、永見漁港も訪れ、富山の豊かな自然と美味しい海の幸を食することができ、富山の魅力を十分満喫しました。多くの場所をご案内していただいた清水さん、松田さんに感謝申し上げます。